

寛保二年の荒川洪水 位磨崖標

尾上由衣

説明文：私の住んでいる寄居町の中央を西から東に荒川が流れている。荒川は「荒ぶる川」であり以前はその名前が示す通り荒れる川で洪水がたびたび起こっていた。寛保二年の洪水はその中のひとつで秩父郡長瀬町にはその時の洪水の水位を刻んだ碑があることを知り調査することにした。

写真①（左上）「寛保洪水位磨崖標」入口

撮影日時：平成26年8月8日

撮影場所：秩父郡長瀬町野上下郷長瀬第二小学校の裏には県指定史跡「寛保洪水位磨崖標」がある。看板には、寛保二年（1742）関東各地に未曾有の災害をもたらした、大洪水の水位を示す史跡である。8月1日夜、荒川の水位は最高に達しこの付近一帯は、ことごとく水底に没した。後日、地元の有志2名によってこの岸壁に「水」という磨崖標が刻まれた。

写真②（右上）結晶片岩の岸壁に刻まれた「水」の文字

撮影日時：平成26年8月8日

撮影場所：秩父郡長瀬町野上下郷

囲いの中に入った奥の右の岸壁に、大きく「水」の文字が刻まれていた。これは洪水の恐ろしさを、後世に伝える為に残したもので今から270年以上も前の出来事である。足元付近には、荒川の水位が最高に達した「八月一日」の文字も認められた。

写真③（左下）長瀬二小にある「水」

撮影日時：平成26年8月8日

撮影場所：秩父郡長瀬町野上下郷

国道140号線に面してこの看板が掲げられている。この場所は、秩父鉄道樋口駅北側で長瀬第二小学校のグラウンド南の隅にあたる。写真の「水」の位置は、長瀬第二小学校裏にあり、磨崖標の「水」の位置と同じ高さである。この「水」の位置は、国道140号線の道路面から3.5mの高さである。現在の荒川の河底からハンドレベルで測定したところ約22.1mであった。この水の文字は272年前の洪水を今に伝える生きた証人である。

写真④（右下）白鳥橋上流の荒川の様子

日時：平成26年8月8日

場所：秩父郡長瀬町野上下郷

荒川に架かる白鳥橋から上流側を撮影した。白鳥橋は秩父鉄道樋口駅から300m下流の橋である。この日の水面からの高さを測定したところ20.0mであった。橋の上2.1mとして写真中央の建物の屋根付近まで当時の洪水は来たものと考えられる。この付近は両側から山が迫って川幅が急に狭くなり、まるで上流のような地形になっているため磨崖標の高さになった。荒川は、文字通りの「荒ぶる川」で資料によると寛保二年だけでなく、宝暦年間、天明六年、弘化三年、安政六年などの洪水災害碑が県内各地に残っている。